

導入事例

株式会社ヴァイナス 様

高度なデータセキュリティに完全対応する 「ELSA VIXEL V200」

大阪に本社を置く株式会社 ヴァイナス。おもにCFD (Computational Fluid Dynamics: 数値流体力学) や CAE (Computer Aided Engineering: コンピュータ支援エンジニアリング) に関わるパッケージソフトウェアの販売、コンサルティングなどを手がける。1996年の設立以来、流体解析用ソフトウェア「FieldView」を皮切りに、数値解析用メッシュジェネレータ「Pointwise」、ノンパラメトリック構造最適化ツール「TOSCA」など、CFD / CAE関連の専用ソリューションを次々に国内に展開。2003年には自社独自技術による製品 Super Matrix Solver で「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー 2003 エンジニアリング部門」において最優秀賞を受賞するなど、輝かしい功績を残してきた。近年は長年蓄積したノウハウをもとに、各ユーザー環境とニーズに特化した数理工学システム開発にも着手し、CFD / CAE業務において最適なパフォーマンスを発揮するための業務効率化支援を積極的に行なっている。

同社が関わる領域は、工業製品設計の最上流に位置する非常に重要な分野。取り扱うソフトウェアは、自動車のエンジンや飛行機の本体設計など我々の生活にも密接に関わる部分で数多く採用され、重工業、自動車産業をはじめとする民間企業から宇宙工学を扱う JAXA などの公共機関、官公庁、日本国内の主要大学まで、取引先は実に多岐にわたる。設計の最上流に位置する関係上、数々の機密情報を扱うことが多い同社にとって、データセキュリティには細心の注意が必要となる。2008年9月には日本 IBM 製のワークステーションブレードを14台導入して、一元集中管理による高いセキュリティ環境を構築した。現在も本ブレードシステムは稼働中だが、製品そのものが終息。同等のセキュリティ性能を満たす機器の導入が急務とされる中、白羽の矢が立ったのがエルザ ジャパンの「ELSA VIXEL V200」である。

導入したのは2010年9月。「ELSA VIXEL V200」は、小型のデスクトップポータル「ELSA VIXEL D200」と、PCI-Express x1バスに接続するホストカード「ELSA VIXEL H200」のセットから成る。PCoIP (PC-over-IP) を採用し、ワークステーションにおける3次元グラフィッ

クスのIP転送をリアルタイムで行うことができる。業務上、CADデータをひんぱんにやり取りする同社にとって、強固な転送プロトコルを持つ PCoIP ソリューションは理にかなったものだった。

さらに選択時の重要なポイントとなったのが、高セキュリティを担保している点。「ELSA VIXEL D200」は CPUレス、OSレス、HDDレスの構造を持ついわゆるゼロクライアント端末だけに、クライアント側には一切データを置かない。これにより、データ流出・漏えいに関するリスクを極力低減し、万全の管理体制を敷くことができる。現在、同社には「ELSA VIXEL V200」が全10セット導入され、従来のブレードシステムと並行しながら運用中だ。同社は大阪本社のほか東京支社を構えており、合計で30人の技術者を擁する。運用のフローは、ワークステーションを大阪本社に設置し、大阪・東京それぞれから「ELSA VIXEL D200」を通じてリモートアクセス (東京からのアクセスはVPN経由)。画像送受信は事務系 LAN、解析データはワークステーション / 解析専用ファ

イルサーバーが接続されている受託案件系 LAN に完全に分けられ、通信時もセキュリティに気を配っている。「ELSA VIXEL V200」の導入経緯や運用体制などについて、代表取締役社長の藤川泰彦氏、プロジェクト推進部長の橋場数宏氏、販売代理店ディアスクエア ソリューション本部 IT システム技術部アドバイザーシステムエンジニアの上田智博氏に話を聞いた。

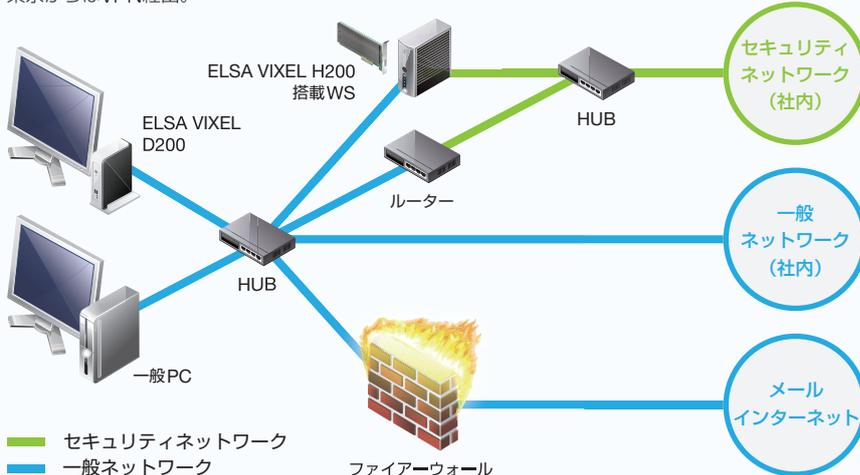
強固なセキュリティスタイルに適した 「ELSA VIXEL V200」

—現在、「ELSA VIXEL V200」を10セット導入されています。まずは導入のきっかけを教えてください。

橋場氏: もともと2008年に日本 IBM 製のワークステーションブレード (「IBM BladeCenter HC10」) を14台導入しました。当初は2~3年かけて増設する計画でしたが、初回の導入直後に生産中止になるという事実を聞きまし

ネットワーク構成図 (イメージ)

画像送受信用 (ELSA VIXEL V200) と受託案件用にネットワークを分け、セキュリティを強化している。東京からはVPN経由。



て、その後の増設をどうするかという課題が浮上しました。そこでワークステーションブレードの時と同様、ディアイスクエア様に相談したところ、ソフトウェア処理のソリューションとハードウェア処理の「ELSA VIXEL V200」を提案していただきました。そこでそれぞれを試してみた結果、「ELSA VIXEL V200」に決めたのです。

藤川氏：我が社の取引先は、重工関係、防衛関係、宇宙工学関係など国家プロジェクトに近い仕事も多く、データ管理に関しては非常に高い機密性が常に求められます。その上、我々の業務は数値解析という設計の最上流に位置している分野ですので、万が一にもデータ流出などの事態になれば命取りとなります。先のブレードシステムも含め、今回の「ELSA VIXEL V200」の導入は、セキュリティ強化の観点から重要でした。単にハードウェア能力だけでなく、総合的なサービスのレベルが高いこともあり、安心して大事なセキュリティに関するデータを預けることができている。以前のシステムからシームレスに移行している点にも満足です。

——ブレードシステム導入の時点で、データ一括管理の仕組みを構築されたわけですね。

藤川氏：我々が扱うようなアップフロントのデータを、いかに物理的あるいは運用的にシステムの中でガードするか。この問題に対処するために集中管理を導入したのですが、これからさらに強固なセキュリティは重要性を増していくと思います。

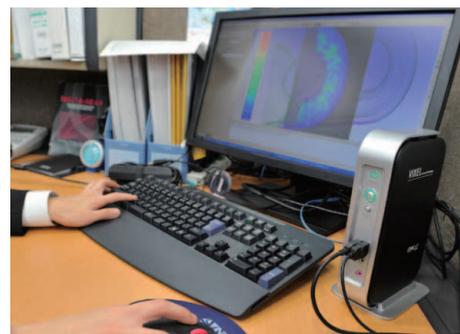
橋場氏：ブレードシステム導入以前もファイルサーバーを設置してデータ管理を行ってはいました。しかし、物理的にPCを持って行かれた場合などは一巻の終わりです。その点、サーバールームに集中して管理できるシステムというのは大きなメリット。「ELSA VIXEL V200」は我々の社内システムのセキュリティを高めるのに適していました。

LANを分割してPCoIPの特性を活かす

——業務の中でLANを使い分けられているとお聞きしましたが、具体的にはどのように運用されているのでしょうか。

橋場氏：事務系と受託案件系の回線に分けています。受託案件系のLANは、お客様からお預かりした大切なデータを取り扱うため、インターネットに接続できないようにしています。また、VIXELの画像転送には事務系LANを利用することにし、受託案件系のLANはサーバールームの外に出ず、一般社員からは論理的にも物理的にも隔離することができました。

上田氏：私が知る限り、ここまで完全にLANを分けて「ELSA VIXEL V200」を導入されているのはヴァイナス様だけです。この方式にすることで、大きなデータが混在することがないため、画像転送に多くの帯域を使えるようになります。PCoIPの性質上、帯域があればあるだけ利用する仕組みですから。



作業風景。「普通のPCとして皆が使っている」(橋場氏)というように、日常業務にすんなりと溶け込んでいる。

橋場氏：現在は受託案件のセグメントと、社内の事務系セグメントを完全に分けているため、相互で通信自体ができません。ただし、お客様にデータを納める際には上長の許可があればデータのやりとりができる仕組みは取り入れています。

上田氏：完全に分かれた状態になったところで「ELSA VIXEL V200」を導入しましたので、“セキュリティは万全”という状態が完成したわけです。

藤川氏：弊社での取り組みに加えて、こうした機器の導入に関しては導入後の安定した運用が重要になります。運用の安全価値、的確なソリューションも含めてトータル面でディアイスクエア様のサポートメリットは非常に大きいと感じています。

Product

VINAS Co., Ltd. & DI SQUARE.



ELSA VIXEL V200

ワークステーションの3Dグラフィックスパフォーマンスを、リモート環境においてもそのまま実現するリモートグラフィックスソリューション。



株式会社 ヴァイナス
代表取締役社長

藤川 泰彦 氏



株式会社 ヴァイナス
プロジェクト推進部長

橋場 数宏 氏



株式会社 ディアイスクエア
ソリューション本部
ITシステム技術部

上田 智博 氏

株式会社 エルザ ジャパン

www.elsa-jp.co.jp

〒105-0014 東京都港区芝3丁目42番10号 三田UTビル
TEL.03-5765-7391 / FAX.03-5765-7235

● ELSA (エルザ)は、テクノロジー・ジョイント株式会社の登録商標です。● PC-over-IP and PCoIP are registered trademarks of Teradici Corporation. ● Windowsは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標及び登録商標です。● その他の商品名は各社の商標または登録商標です。● 仕様などは改良のため、予告なしに変更されることがあります。● 本カタログの掲載内容は2012年5月現在の情報です。

2012.5



お問い合わせ先